

原田市政20年間の成果と課題は！ 待機児童は市の判断の遅れが要因！



袋井市議会 9月定例会 高橋美博(よしひろ)議員の一般質問

今季限りでの退任を表明した原田市長に対し、共に歩んだ20年を振り返り、成果と課題について質問した。

袋井市民のパワーについての市長の評価は

問 市長就任直後の袋井市は、東海道開設四〇〇年祭、日韓共同開催サッカーワールドカップ、第58回国民体育大会New!!わかふじ国体と3年連続で開催され、市民の力で大成功をおさめた。改めて袋井市民のパワーと市職員の働きについての評価は。

答 市民がイベントに主体的積極的に参加し、様々な形でイベントを支え盛り上げてくれたこと、そして市民と行政が知恵と汗を出し合い、市民力を発揮できたことの結果である。今後も、市内で開催される多種多様なイベントに加え、子育て支援や地域包括ケアシステムの充実、特色ある地域づくりなど様々な分野に市民パワーをまちづくりに活かしていきたい。

浅羽町との合併・自治体病院統合への評価は

問 市長は紆余曲折をへて浅羽町との合併を実現させたがその評価はどうか。

答 地域の特色を生かしつつ、一体的で均衡あるまちづくりを推進してきたことは大きな成果である。

問 病院統合協議において市長が市民のために最大限の力を尽くしたかは疑問である。市長は今、協議と結果についてどのように評価しているか。

答 経費の負担割合や建設場所など大きな課題があった。袋井・掛川両市民が安心できる医療環境を維持・確保することを最大の共通目標に掲げ、両市の関係者をはじめ、県や大学その他の医療関係者などのご尽力により、建設場所、運営形態、規模等が決定された。

子育て支援施策、障害者施策の課題は

問 子ども医療費助成制度の対象拡大、子育て支援センターの充実など、「子育てするなら袋井市」と子育て施策は市の誇れる施策となった。しかし、保育所入所待機児童問題は市の判断の遅れが要因では。

答 従来、公立幼稚園を主体とする就学前教育が市民に馴染んでいたこと、保育所よりも保育料が安い幼稚園での預かりの充実により子育て支援を推進してきたことが、保育園化促進を遅らせたことも事実である。

問 障害児放課後児童クラブや早期療育センターの公設での開設など障がい者施策を前進させた。市長が今後期待することは何か。

答 障害がある人が住み慣れた地域で自立した生活を送れるような生活支援や障がい者自立支援施設の整備促進を図るなどニーズに合った施策の展開が必要であると考えている。

原田市長が教育に求めるものは何か

問 レインボープランによる教育支援体制の強化、幼小中一貫教育による教育目標の明確化など教育改革を進めてきたが、市長が教育に期待するものは何か。

答 次代を担う子どもたちが自分で考え行動し、多様な考えを持つ周りの人々と共生しながら様々なことに挑戦する力を身につけ、世界に飛び出し駆け回っていても、いつも、ふるさと袋井を愛する気持ちを持って

いる人、まさに「心ゆたかな人づくり」が実現していくことを期待している。

防災対策の現在の到達点への評価は

問 東日本大震災直後から地震津波対策に精力的に取り組む、命山の完成、防潮堤整備など成果をあげてきた。市長の防災対策の現在の到達点への評価は。

答 これまでの取り組みにより地域防災力の強化が図られ、被害軽減対策を計画的に推進しており、十分な効果が得られているものと判断している。しかし、近年日本各地で発生している豪雨災害をみると十分とは言えない状況である。今後も、自助、共助、公助による人命被害ゼロを目指して、積極的に防災力の強化を図っていく。

国本地区の商業開発計画は市長の最大の誤り

問 平成17年以来進められた計画は、7年間にわたり多額の市費、多額の人件費をかけ推進したが平成24年断念した。市長の決断の遅れが市政の混迷と停滞を引き起こしたことに反省すべきではなかったか。

答 当時も議員から質疑があり、これほど農地の規制が厳しくなると予想できなかったなどの反省や、地権者はじめ、市民や議会に迷惑をかけたことを、率直に申し訳なく思っていると答弁した。

ふくろい東京交流会、海外訪問事業の成果は

問 ふくろい東京交流会は市長の発案で開始、今年で10年目となる。開催の成果はどうか。

答 参加者の発案によるロシア向け袋井茶輸出プロジェクトや、市民や子ども達のためのワークショップの開催、袋井市を舞台とした市民映画の製作、ふるさと納税をきっかけとした、市内小中学校への図書整備や子ども刮目舎の開講、可睡斎の活人剣の再建などが実現した。また地方創生総合戦略策定のための首都圏部会の立ち上げにもつながった。(海外訪問事業は省略)

平和の取り組みと浜岡原発再稼働への認識は

問 核兵器廃絶平和都市宣言や中学生代表の広島派遣事業を実現したが、市長の平和への思いは。

答 平和な社会の実現は誰もが願うことであり、世界で唯一の被爆国日本は、世界の先頭に立ち、平和や命の尊さを広く世界に、後世に伝えていく義務がある。

問 市長は、浜岡原発再稼働は認めないとの立場でUPZ圏5市2町と中電との安全渠底締結に尽力した。この姿勢は次期市長にも引き継がれるべきと考えるが。

答 市民の安全・安心を確保することを最優先すべきで、浜岡原発の安全性や原子力災害における広域避難の実効性が十分に担保されていないことなどから再稼働を認めるべきではないと考えている。



日本共産党袋井市議会ニュース 発行 2020.9.18

高橋美博 大谷245 ☎ 48-6100

浅田二郎 浅羽2528-1 ☎ 23-2272